



評価項目	具体項目	目標の達成状況	自己評価
学力の向上	指導法の改善	<ul style="list-style-type: none"> ●発達段階に応じて、記録・要約・説明・論述などの言語活動を重視した授業を行っている。 ●算数については、全ての学年でチームティーチング指導を行い、個に応じた指導に努めた。 ●「授業が楽しい、先生が分かりやすく教えてくれる」と答える児童が90%以上であった。 ●質問や意見を言う姿勢は、昨年より向上はしているものの、さらに取り組みの工夫が必要である。 	B
	学習規律の定着	<ul style="list-style-type: none"> ●授業中、姿勢よく話を聞ける児童が増えてきた。 ●算数でのノートの使い方を、全校で統一した取組が継続できている。 ●学習の見通しを持たせることで、学習意欲が高まっている。 ●忘れ物が少なくない児童がいるが、家庭と連絡を取り合い、個別に指導を行っている。 	B
豊かな人間性の育成	人権教育・特別支援教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ●学校全職員で児童の良さを褒め、肯定的な評価を行うように努めた。 ●「学校が楽しい、困ったときに話のできる友達がいる、周りの人の気持ちを考えながら生活している」と答えた児童が、昨年より増えた。 ●「自分が好きだ」と答えた児童が、昨年より10%も増え、自己肯定感が高まってきた。 	B
	豊かな体験活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ●「友達と協力して活動するのが楽しい」と95%の児童が答えている。 ●月1回の色別遊びを児童は楽しみにしており、縦割り活動で児童相互のコミュニケーションが図られている。 ●特色ある活動の米作り、芸術鑑賞、木のおもちゃ作りなど豊かな体験活動を推進することができた。 	A
家庭・地域との連携	基本的な生活習慣の定着	<ul style="list-style-type: none"> ●「学校のきまりや約束事が守れている」と答えた児童が、昨年より20%も増えた。 ●「友達や先生、大人の人に自分からあいさつをする」という児童が10%増えた。 ●「テレビやゲームの時間を決めて守れている」という回答が、保護者も児童も50%ほどで、本年度も課題である。 	B
	家庭学習の定着	<ul style="list-style-type: none"> ●「月初めの『10日間の家庭学習がんばりカード』を全校統一して継続し、家庭学習をきちんとしている」と保護者も児童も80%ほどが答えている。 ●自主学習については、まだまだ不十分で、個別指導の工夫が必要である。 	B
	地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> ●「地域の行事に参加している」と答える児童が昨年より増えている。また、「参加させるようにしている」と答えた保護者も増えている。 ●もちつき大会には、地域の多くの方に参加していただいた。 ●ホームページや学校だより、PTA広報紙などで、学校の情報発信に努めた。 	B



評価項目	具体項目	目標の達成状況	自己評価
学力の向上	授業改善	<ul style="list-style-type: none"> ●全国学力学習状況調査（3年）や標準学力調査（1・2年）の結果を各教科で分析し、特に優れている点と問題点を中心にとらえ、それを意識しながら日頃の授業を行うようにした。 ●7月に英語のティームティーチング授業研究会を、11月に全員で授業を公開し、生徒の活動を中心に授業をみてもらい、今後の授業への参考とすることができた。 	B
	基礎基本の徹底	<ul style="list-style-type: none"> ●3年の数学では習熟度別少人数指導を、1・2年数学、3年国語でティームティーチングを、英語・音楽・美術・技術・家庭の全学年全学級でティームティーチングを実施することができた。 ●テスト前勉強会は、昨年度より落ち着き、集中してできた。夏季休業勉強会も昨年度より参加者が増加した。 	B
	学習規律の定着	<ul style="list-style-type: none"> ●「学習規律は定着したか」に対する教員の評価は、「良かった」が8割、「普通」が84割、「改善すべき」が8割で、昨年度の「改善すべき」38割を考えると、昨年度より落ち着いた様子がよく現れている。 	B
	家庭学習の習慣化	<ul style="list-style-type: none"> ●家庭学習強化月間で、10月は3年生が、2月は1年生と3年生が、1日平均時間1時間30分を達成することができた。 	B
心力向上	学級活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ●今年度から心理検査ハイパーQ Uによる生徒理解に取り組み、学年及び校内での共通理解を図ることができた。 ●「学校行事での学級のまとまり」に対する教員の評価は、「良かった」が50割、「普通」が50割で全員が肯定的にとらえている。 	B
	人権教育・道徳教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ●「日常の生活を通して、豊かな人権感覚は育っていたか」の評価は、92割が肯定的で、昨年度より飛躍的に良くなった。 ●図書的大幅な入れ替えが進み、朝読書が促進できた。 ●道徳の授業の内容や様子についての学級だよりが、自分にとっても教えられることがあったという保護者の感想があった。 	A
	体験活動の重視	<ul style="list-style-type: none"> ●2年生全員が特別養護老人ホーム「あいご」の職員から車いすの体験や介護の仕方を学習した。昨年度から始めた車いす体験をさらに充実することができた。 ●「生徒会活動は活発であったか」に対する教員の評価は「良かった」が31割、「普通」が69割で、全員が肯定的評価であった。昨年度の「普通」が92割、「改善すべき」が8割と比較すると大幅な改善がみられる。 	A
生徒指導の充実	基本的な生活習慣の定着	<ul style="list-style-type: none"> ●生徒指導に対する保護者のアンケートでは、「改善して欲しい」が11割であった。昨年度は「改善して欲しい」が29割あったが大幅な改善がみられる。特に昨年度指摘のあった自転車通学のヘルメット不着用については、新たに罰則を設けたため著しい改善が見られた。 	B
	いじめ・不登校生徒の早期発見と適切な対応	<ul style="list-style-type: none"> ●教室に入らず数日間、校長室、職員室、相談室などで過ごす生徒もいたが、全員が登校して学習することができた。 ●新入生が入学後の7月に小中連絡会を行い、小学校との情報交換ができた。 	A
	教育相談の充実	<ul style="list-style-type: none"> ●「教育相談週間は効果的に活用できたか」に対する教員の評価は、「良かった」が8割、「普通」が92割と、全員が肯定的であったが、出張等で教育相談に十分時間がとれなかったという反省がある。教育相談カルテは有効に活用できた。 	A
	家庭、関係機関との連携	<ul style="list-style-type: none"> ●保小中一貫教育の3つの部会で、それぞれに生徒の実態についての情報交換ができた。 ●わかあゆ教室やスクールカウンセラーとの連携により、不登校傾向の生徒の実態の改善ができた。 ●学年PTAの茶話会での保護者との情報交換はできた。 	A